

直方市の目指す学校規模 について

2025.6.27 学校規模適正化基本計画検討委員会（第四回）

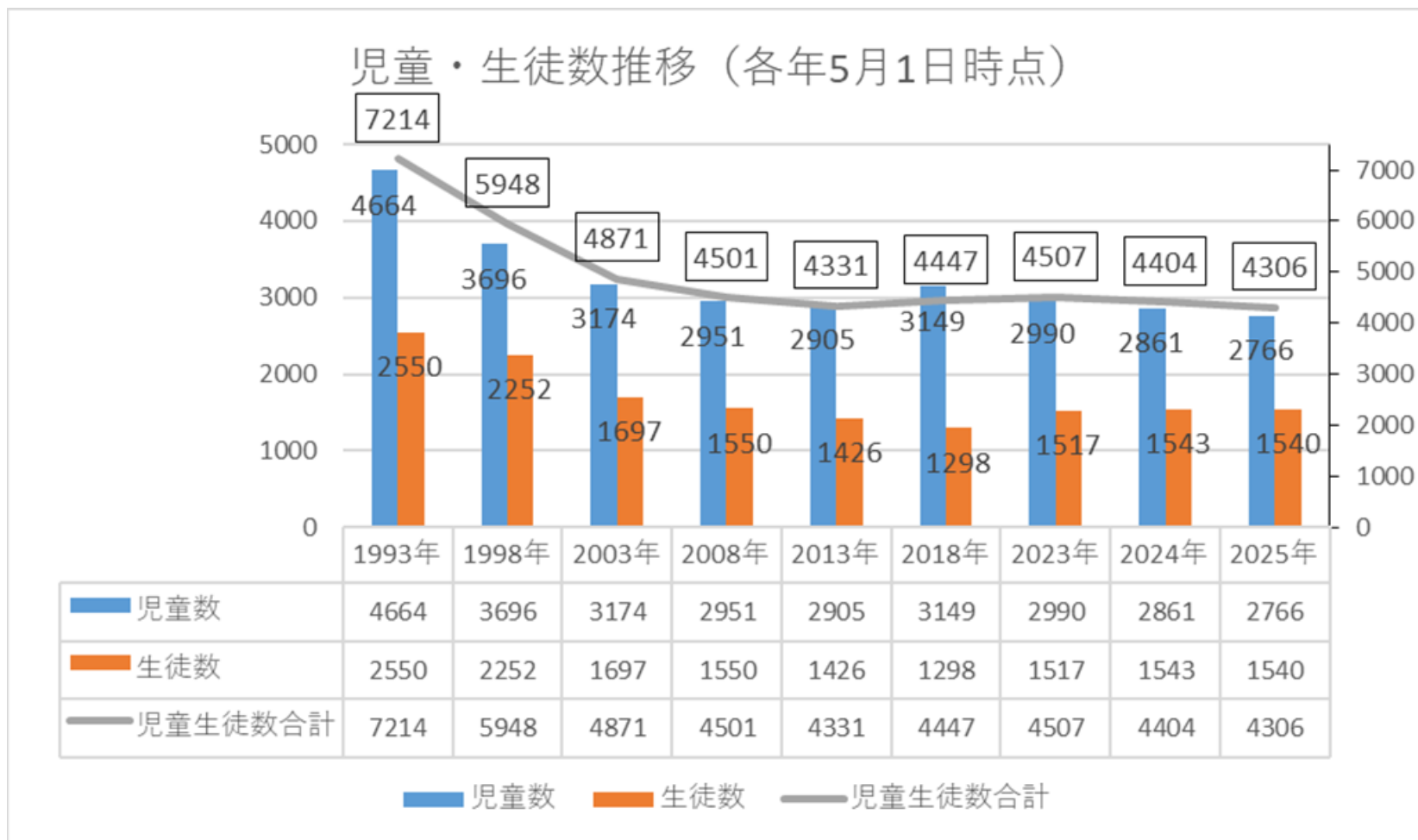
資料④-01

㊦ 0.目次（資料の概要）

1. 児童・生徒数、学級数の変化と予測
・・・ 3～10ページ
2. 基本指針の内容確認
・・・ 11～13ページ
3. 教職員、保護者・児童生徒アンケート
・・・ 14～16ページ
4. 教職員の配置の標準
・・・ 17～18ページ
5. ご意見、ご協議いただきたいこと
・・・ 19ページ

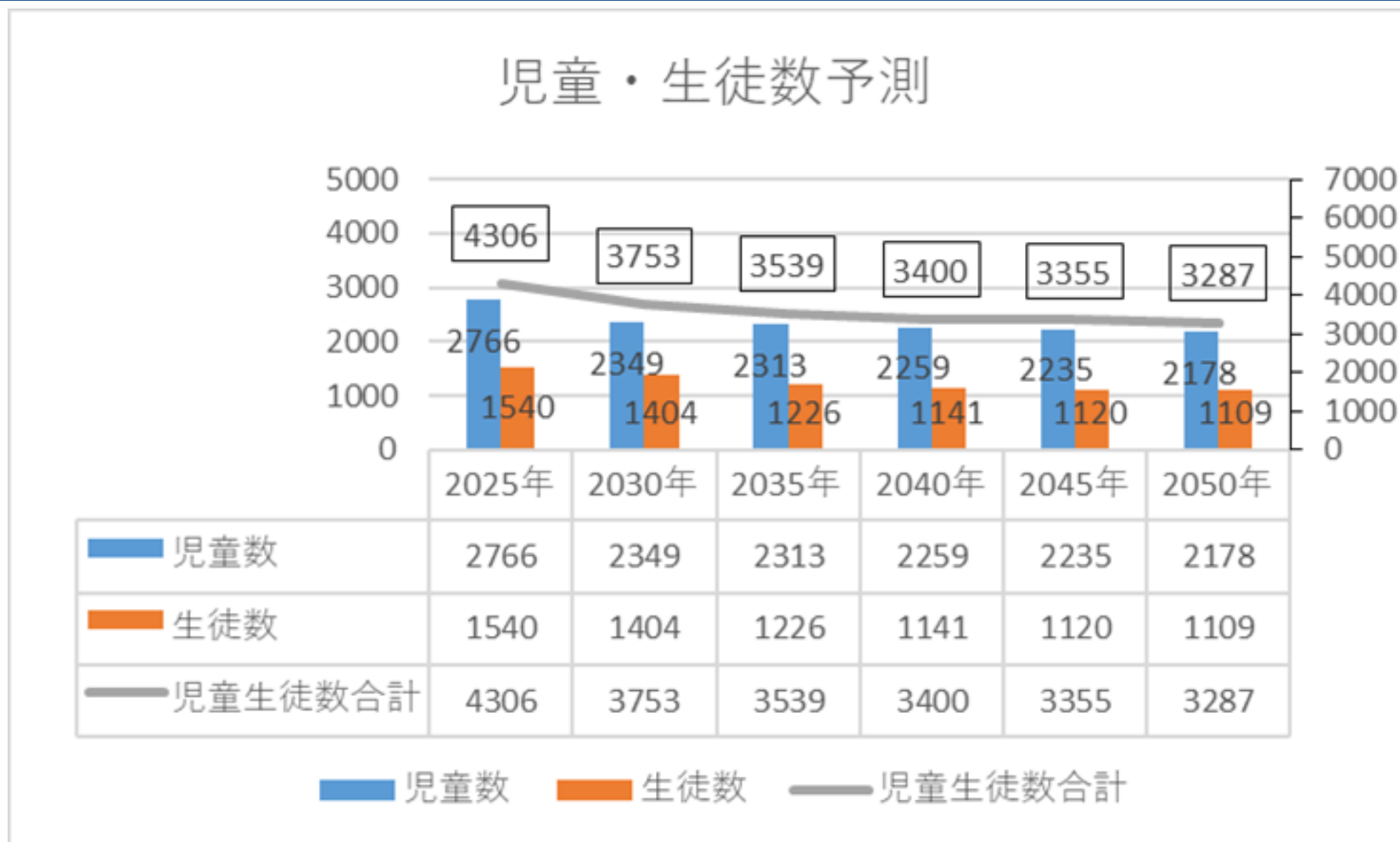


1-1.児童・生徒数の変化（1993年～2024年）





1-2.児童・生徒数予測（2025年～2050年）



2025年は、実数（2025.5.1時点）

2030年は、予測（2025.4末時点の「住民基本台帳データ」）

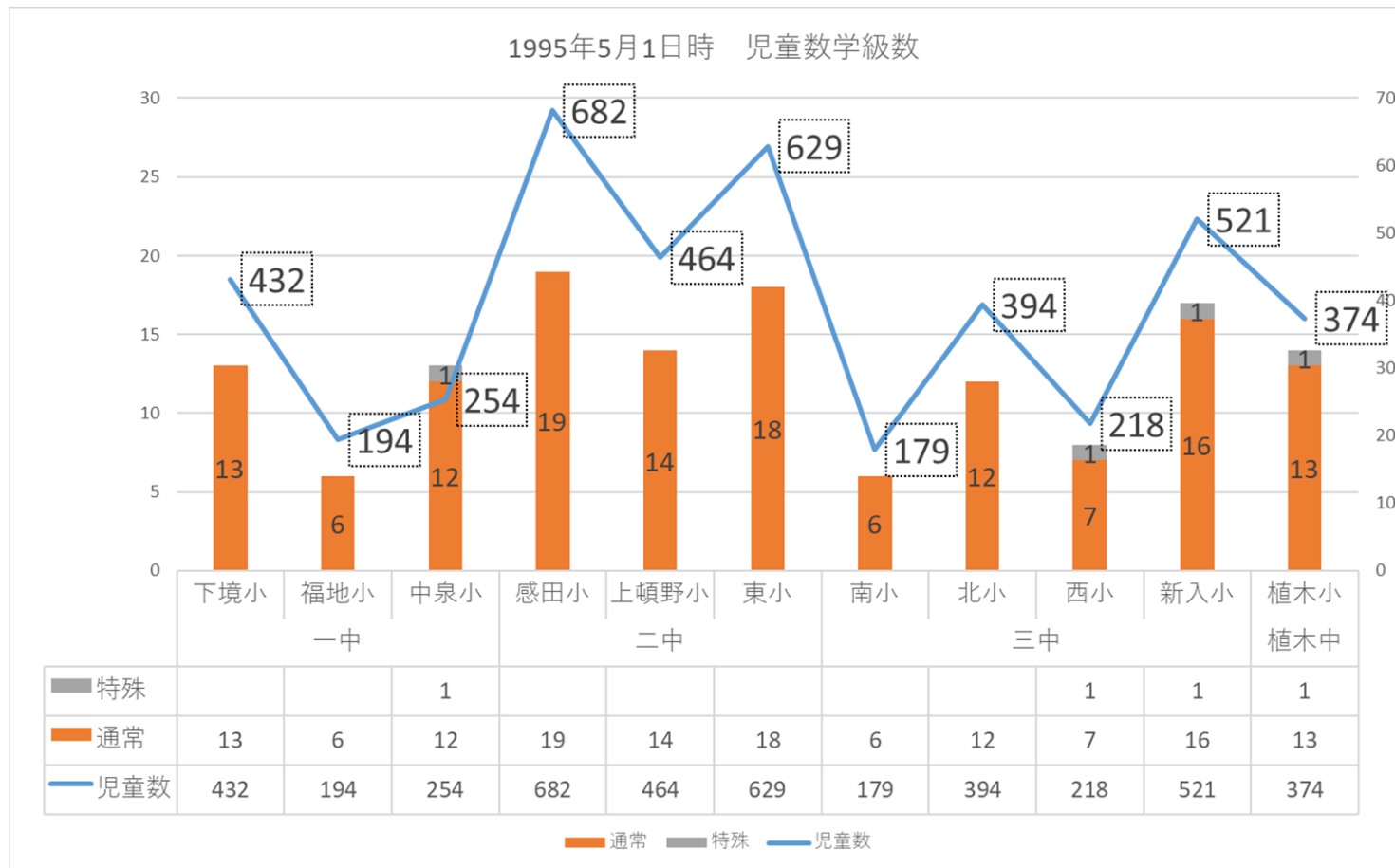
2035年以降は、予測【「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）×「住民基本台帳データ」】

2025/6/27学校規模適正化
基本計画検討委員会

資料④-01直方市の目指す学校規模につい
て

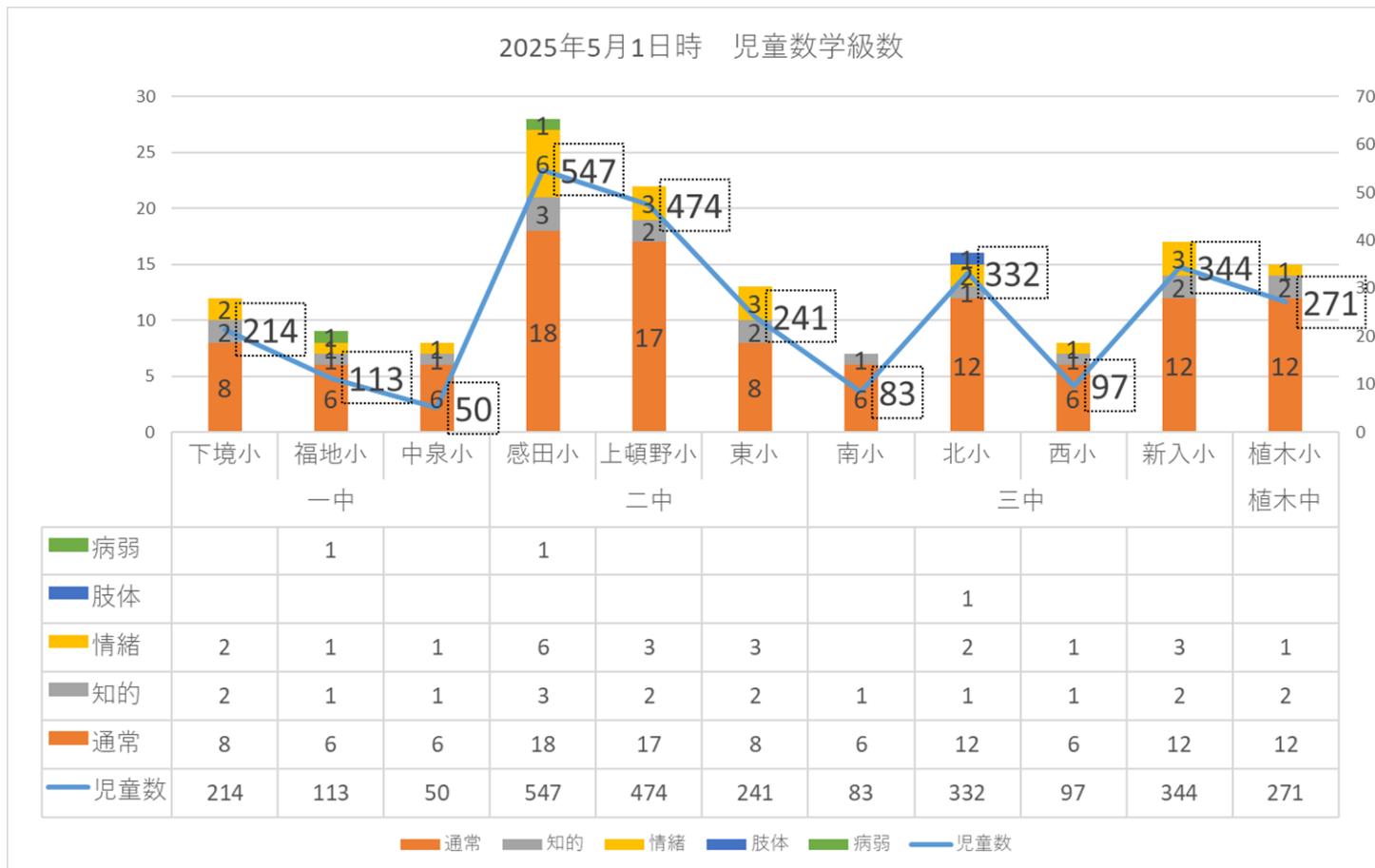


1-3.児童数・学級数の変化（小学校別・1995年） 1/2



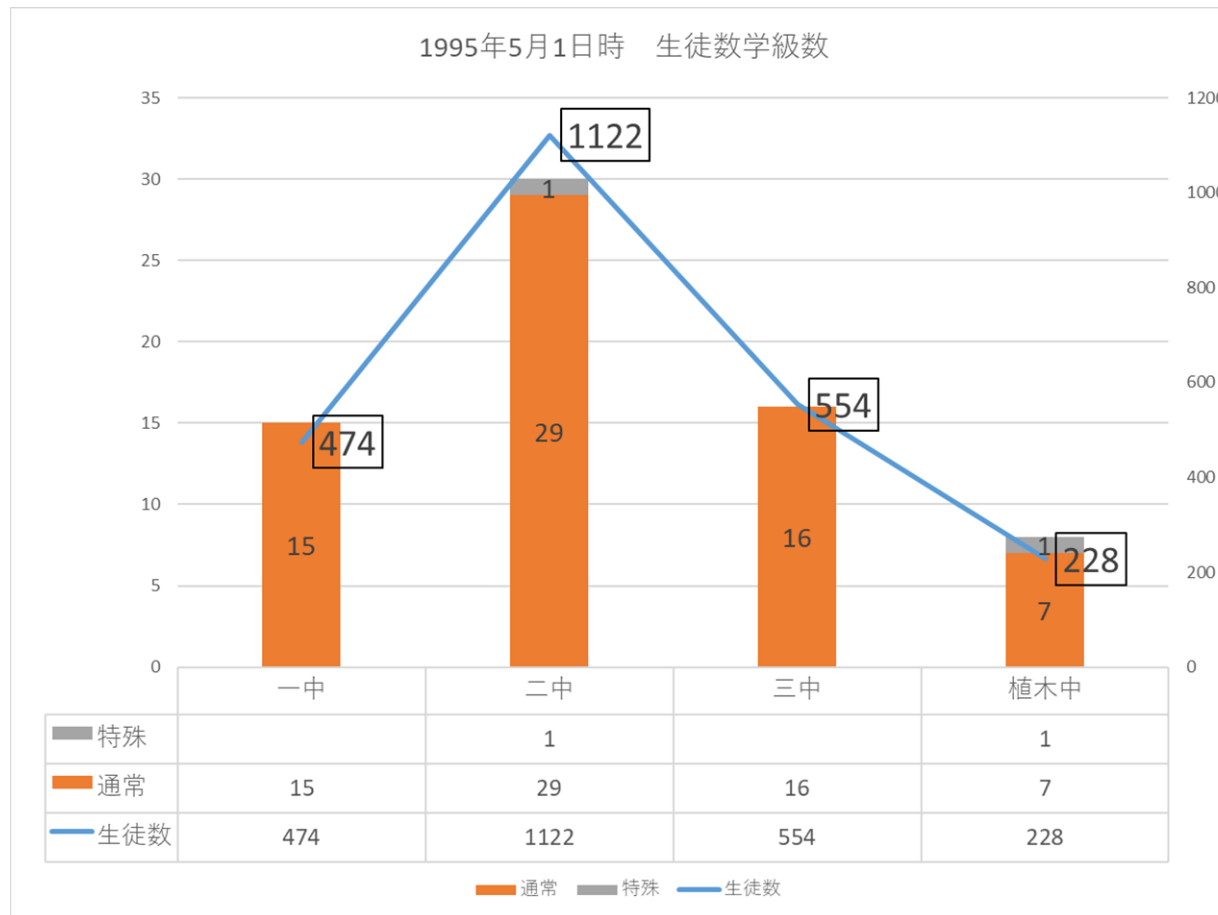


1-4.児童数・学級数の変化（小学校別・2025年） 2/2



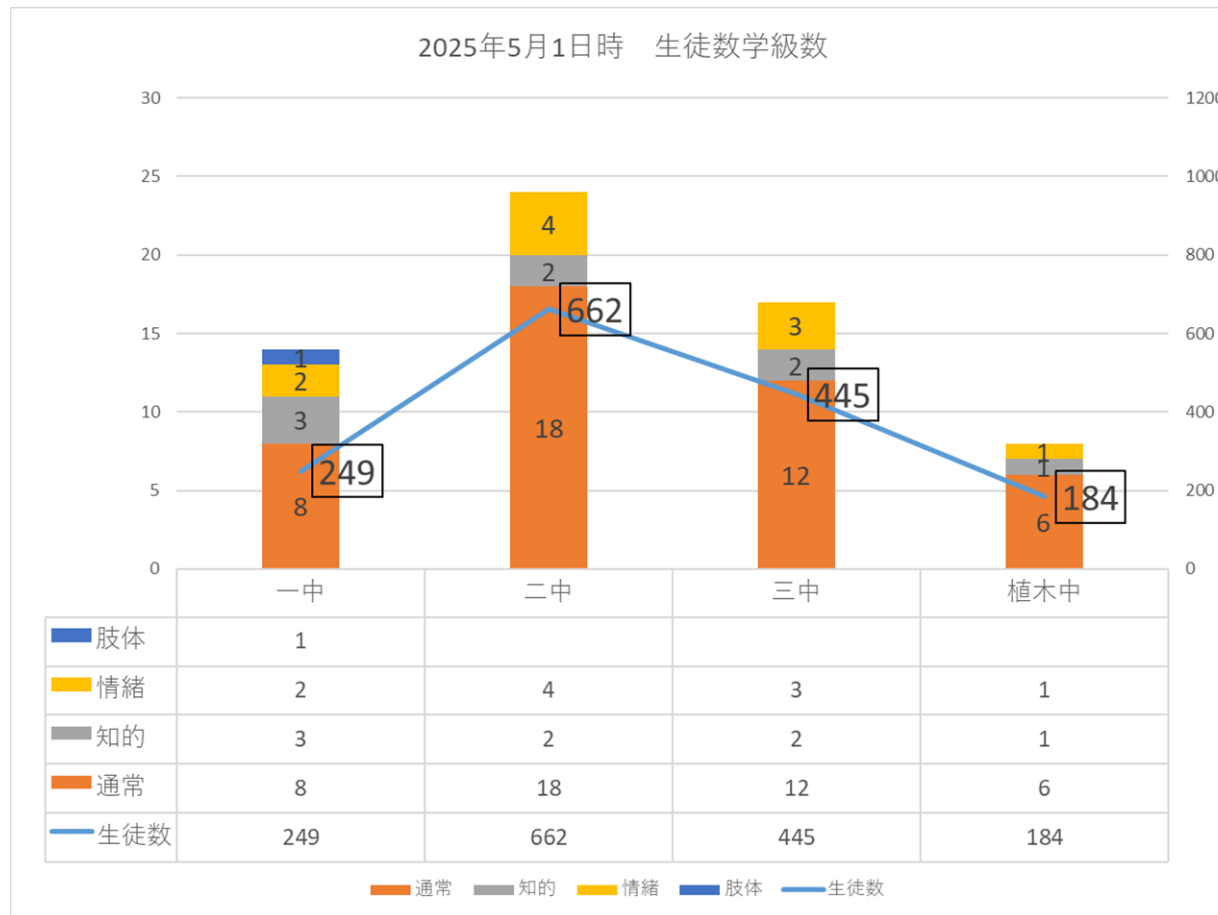


1-5.生徒数・学級数の変化（中学校別・1995年） 1/2





1-6.生徒数・学級数の変化（中学校別・2025年） 2/2





1-7.児童・生徒数、学級数について 1/2



○児童・生徒数の減少

	1993年	2025年	2050年
児童数・学級数	4,664人・ 148 学級	2,766人・ 111 学級	2,178人
生徒数・学級数	2,550人・ 72 学級	1,540人・ 44 学級	1,109人

※学級数は、通常学級数

○学校間の差

感田小	547人	18学級	二中	662人	18学級
中泉小	50人	6学級	植木中	184人	6学級

※学級数は、通常学級数

○特別支援学級の増加

(※2006年の学校教育法の改正により、「特殊学級」→「特別支援学級」)

	1993年	2025年
	特殊学級	特別支援学級(知的・情緒・肢体・病弱)
小学校	4	45 (17・25・1・2)
中学校	2	19 (8・10・1・－)



1-8.児童・生徒数、学級数について 2/2



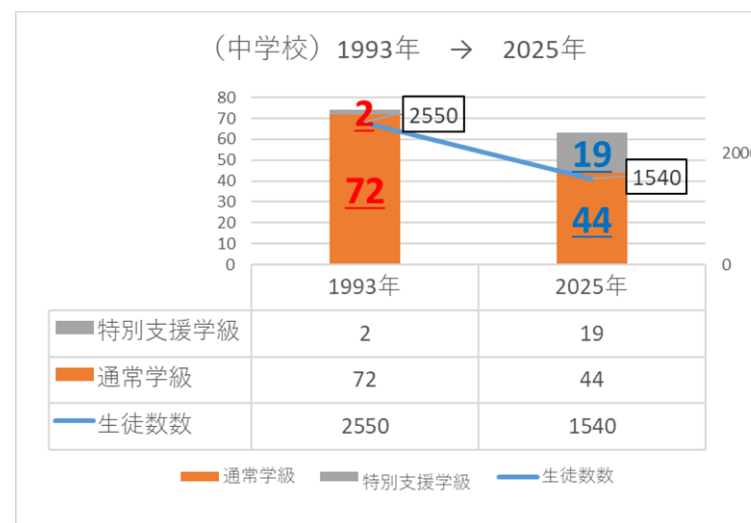
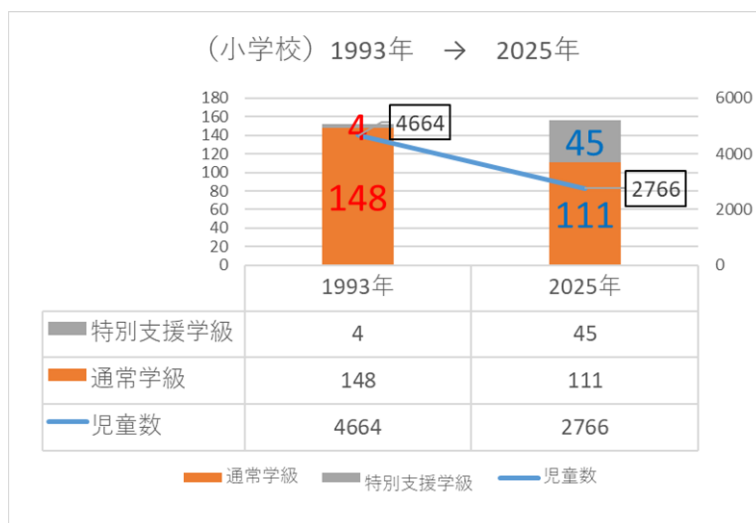
○学級数の変化

	1993年（通常+特殊）	2025年（通常+特別支援）
小学校	152 学級（ 148 + 4 ）	156 学級（ 111 + 45 ）
中学校	74 学級（ 72 + 2 ）	63 学級（ 44 + 19 ）

※児童生徒数は、減少しているが・・・

※学級数※

小学校は、微増 中学校は、若干の減少
→ 空き教室が増えている訳ではない





2-1.基本指針の内容確認 1/3



直方市の学校規模適正化に関する基本的な考え方

(資料①-01「直方市学校規模適正化基本指針」 12ページ)

【教育的な観点】

義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通して思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に着けることが重要となります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

【地域コミュニティの核としての性格の配慮】

小・中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています。また、学校教育は地域の未来の担い手であるこどもたちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っています。



2-2.基本指針の内容確認 2/3



直方市の目指す学校教育

(資料①-01「直方市学校規模適正化基本指針」 13ページ)

○教育基本法：

教育の目的は「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」を期すること、と規定されています。

○学校教育法：

義務教育の目標を設定

○教育振興基本計画：

教育基本法に示された理念と、教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、政府が策定

●直方市教育大綱：

令和2年に策定

「未来を拓く～新しい時代をたくましく生き抜く人づくり～」

直方市の目指す学校教育は、

「多様な価値観が存在する社会をたくましく生き抜くために、児童生徒の可能性を最大限に引き出し、主体的に学び続ける力を育む学校教育」と定めます。



2-3.基本指針の内容確認 3/3



直方市の学校規模の分類（定義）と規模ごとの対策 （資料①-01「直方市学校規模適正化基本指針」 14～17ページ）

学校規模の分類

規模の分類	学級数 (通常学級)	分類の説明
過小規模	1～5学級	小学校では複式学級が存在する規模 中学校では複式学級又はクラス替えができない学年が存在する規模
小規模	6～11学級	小学校ではクラス替えができない学年が存在する規模 中学校では標準には満たないもののおおむね全学年でクラス替えができる規模
標準規模	12～18学級	学校教育法施行規則上、標準とされる規模
大規模	19～24学級	
過大規模	25学級以上	

学校規模ごとの対策

		具体的な対策		対策検討にあたっての 基本的な観点
過小規模 (1～5学級)	小学校	学校統合を基本とした 対策を速やかに実施		【教育的な観点】
	中学校	(1～2学級)	(3～5学級)	
		学校統合を基本とした 対策を速やかに実施	教育上の課題を整理し、 学校統合が望ましい場合は 速やかに学校統合を実施	
小規模 (6～11学級) ↓ 5年以内に 過小規模	小学校	学校統合を基本とした 対策を速やかに実施		
	中学校	5年以内に (1～2学級)	5年以内に (3～5学級)	
		学校統合を基本とした 対策を速やかに実施	教育上の課題を整理し、 学校統合が望ましい場合は 速やかに学校統合の検討開始	
小規模 (6～11学級) ↓ 継続して 小規模	学級数だけでなく、その時点の児童生徒数や今後5年の児童生徒予測を勘案し、必要な措置を検討 検討の結果、学校統合が望ましい場合は、学校統合の検討を開始 措置の検討の間は、小規模校のメリットを生かし、デメリットを緩和する対策を実施		【教育的な観点】 【地域コミュニティの核としての性格の配慮】	

3-1.教職員アンケート



基本指針検討に係るアンケート（教職員）（※資料①-04答申書参考資料）

問7：小学校の学級数

小学校の1学年の学級数はどの程度が望ましいと思いますか。 ※普通学級
国の定める法令上、小学校の学級数は「1学年あたり2～3学級（1学校あたり12～18学級）を標準とする」となっています。

	1学級	2～3学級	4学級以上	総計
小学校の1学年の学級数はどの程度が望ましいと思いますか。	7	273	14	294
	2.4%	92.9%	4.8%	100.0%

1学級が望ましいと思う一番大きな理由

	一人一人の状況を把握しやすく、きめ細かな指導を受けやすい	豊穣や感動を体験できる機会が多くなる	運動場や体育館、特別教室などが余閑をもて使える	異年齢の学習活動を取り組む	体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる	異学年間の交流機会が多くなりやすい	地域の能力が伸びやすく、地域の教育資源を生かした教育活動がしやすい	家庭や地域の環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携しやすい	その他	総計
1学級が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	5	1	0	0	0	0	0	0	1	7

2～3学級が望ましいと思う一番大きな理由

	児童生徒や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる	クラス替えを機会として新たな人間関係を構築する力を身に付けられる	クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる	学級間士が切磋琢磨する環境を作ることができる	児童生徒の学級を分けることできめ細かな指導ができる	その他	総計
2～3学級が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	128	72	21	23	26	3	273

（その他）の理由

- 異なる視点から教育活動を考えることは必須であると考え複数学級が望ましいと考えます。4学級以上もかまわないと思いますが、学年の人数が150程度になるような調整が望ましいのではないかと個人的には思います。
- 若い先生が増えているので、一学級だと何をどうしていいのか、分からない事があると思う。経験した人と一緒にする方が、楽かなと思う。しかし、嫌な同学年は、困るけど？
- 同学年で授業進度や学習形態など、相互に確認しながら進めることができる。

4学級以上が望ましいと思う一番大きな理由

	児童生徒や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる	クラス替えを機会として新たな人間関係を構築する力を身に付けられる	クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる	学級間士が切磋琢磨する環境を作ることができる	児童生徒の学級を分けることできめ細かな指導ができる	その他	総計
4学級以上が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	3	5	2	2	2	0	14

問8：中学校の学級数

中学校の1学年の学級数はどの程度が望ましいと思いますか。 ※普通学級
国の定める法令上、中学校の学級数は「1学年あたり4～6学級（1学校あたり12～18学級）を標準とする」となっています。

	1学級	2～3学級	4～6学級	7学級以上	総計
中学校の1学年の学級数はどの程度が望ましいと思いますか。	2	165	118	9	294
	0.7%	56.1%	40.1%	3.1%	100.0%

1学級が望ましいと思う一番大きな理由

	一人一人の状況を把握しやすく、きめ細かな指導を受けやすい	豊穣や感動を体験できる機会が多くなる	運動場や体育館、特別教室などが余閑をもて使える	異年齢の学習活動を取り組む	体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる	異学年間の交流機会が多くなりやすい	地域の能力が伸びやすく、地域の教育資源を生かした教育活動がしやすい	家庭や地域の環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携しやすい	その他	総計
1学級が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2

2～3学級が望ましいと思う一番大きな理由

	児童生徒や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる	クラス替えを機会として新たな人間関係を構築する力を身に付けられる	クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる	クラス間士が切磋琢磨する環境を作ることができる	児童生徒の学級を分けることできめ細かな指導ができる	その他	総計
2～3学級が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	68	37	12	24	21	3	165

（その他）の理由

- 異なる価値観と子どもたちが会えることが大切であると考えなるべく多くの大人が関われる体制が望ましいと考えます。学年の人数が150程度になるような調整が望ましいのではないかと個人的には思います。
- 生徒数が多すぎると、移動するだけで時間を消費するから。
- 同学年で授業進度や学習形態など、相互に確認しながら進めることができる。

4～6学級が望ましいと思う一番大きな理由

	児童生徒や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる	クラス替えを機会として新たな人間関係を構築する力を身に付けられる	クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる	クラス間士が切磋琢磨する環境を作ることができる	児童生徒の学級を分けることできめ細かな指導ができる	その他	総計
4～6学級が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	49	25	11	24	9	0	118

7学級以上が望ましいと思う一番大きな理由

	児童生徒や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる	クラス替えを機会として新たな人間関係を構築する力を身に付けられる	クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる	クラス間士が切磋琢磨する環境を作ることができる	児童生徒の学級を分けることできめ細かな指導ができる	その他	総計
7学級以上が望ましいと思う一番大きな理由をお答えください。	2	2	0	3	2	0	9



3-2.保護者、児童生徒アンケート 1/2



基本指針検討に係るアンケート（保護者、児童生徒）（※資料①-04答申書参考資料）

3.小学校の学校規模のこと（保護者の意見）

（小学生の保護者の回答）



（中学生の保護者の回答）



全体の傾向として、直方市の小中学生の保護者は、小学校の1学年の学級数は2～3学級が望ましいと考えています。

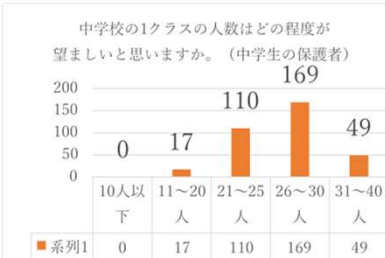
小学校の1学年は1学級が望ましいと回答した小学生の保護者74名のうち54名は、現在1学年1学級の学校（南小・西小・福地小・中泉小）に通っている保護者でした。（7頁参照）

5.クラスの規模のこと（保護者の意見）

（小学生の保護者の回答）



（中学生の保護者の回答）



2025/6/27学校規模適正化基本計画検討委員会

4.中学校の学校規模のこと（保護者の意見）

（小学生の保護者の回答）



（中学生の保護者の回答）



中学校の1学年の学級数について、全体的に、小学校よりも規模が大きい4～6学級を望む保護者が多いことが分かります。特に、中学生の保護者においてはその傾向が強くなります。

6.特に配慮すべきこと（保護者の意見）

学校の適正な規模や配置の検討にあたり特に配慮すべきことは何ですか（3つ以内にチェック）



資料④-01直方市の目指す学校規模について



3-3.保護者、児童生徒アンケート 2/2



基本指針検討に係るアンケート（保護者、児童生徒）

8.お子様のご意見を聞かせてください（児童生徒の意見）（小学生の回答）



（※資料①-04答申書参考資料）

8.お子様のご意見を聞かせてください（児童生徒の意見）（中学生の回答）





4-1.教職員配置の標準（小学校）



学校規模別教職員配置の標準（例）

【小学校】

（単位：人）

学級数	校 長	副校長・教頭	教 諭					教 員 計	養護教諭	事務職員	合 計
			学級担任	担 任 外	生徒指導	指導方法工夫改善	小 計				
3学級	1	—	3	0.75	—	—	3.75	4.75	1	0.75	6.50
6学級	1	0.75	6	1.00	—	0.25	7.25	9.00	1	1	11.00
12学級	1	1	12	1.50	—	0.50	14.0	16.00	1	1	18.00
18学級	1	1	18	2.60	—	0.75	21.35	23.35	1	1	25.35
24学級	1	1	24	3.00	—	1	28.0	30.00	2	1	33.00
30学級	1	2	30	3.50	0.5	1	35.0	38.00	2	2	42.00
36学級	1	2	36	3.90	0.5	1.25	41.65	44.65	2	2	48.65
42学級	1	2	42	4.50	0.5	1.25	48.25	51.25	2	2	55.25



4-2.教職員配置の標準（中学校）



学校規模別教職員配置の標準（例）

【中学校】

（単位：人）

学級数	校 長	副校長・教頭	教 諭				教 員 計	養護教諭	事務職員	合 計
			教科担任	生徒指導	指導方法工夫改善	小 計				
3学級	1	0.5	7.5	—	—	7.5	9.0	1	0.75	10.75
6学級	1	1	9.5	—	0.25	9.75	11.75	1	1	13.75
9学級	1	1	14.5	—	0.50	15.0	17.0	1	1	19.0
12学級	1	1	17.9	—	0.50	18.4	20.4	1	1	22.4
15学級	1	1	22.5	—	0.75	23.25	25.25	1	1	27.25
18学級	1	1	27.0	1.0	0.75	28.75	30.75	1	1	32.75
21学級	1	1	31.6	1.0	1	33.6	35.6	2	2	39.6
24学級	1	2	35.5	1.0	1	37.5	40.5	2	2	44.5
27学級	1	2	40.0	1.0	1	42.0	45.0	2	2	49.0
30学級	1	2	44.5	1.5	1.25	47.25	50.25	2	2	54.25
33学級	1	2	49.0	1.5	1.25	51.75	54.75	2	2	58.75
36学級	1	2	52.5	1.5	1.25	55.25	58.25	2	2	62.25

5.ご意見、ご協議いただきたいこと

○学校間に、児童・生徒数、学級数に違いが生じている現状について
(6ページ、8ページ、9ページ)

⇒どう思われますか？

○直方市の学校規模適正化に関する基本的な考え方 (12ページ)

直方市の目指す学校教育 (13ページ)

教職員アンケート (14ページ)

保護者、児童生徒アンケート (15ページ、16ページ)

⇒直方市の目指す学校規模 (学級数) は？